

私立大学研究ブランディング事業

2019年度の進捗状況

学校法人番号	401008	学校法人名	福岡大学		
大学名	福岡大学				
事業名	ライフタイムにおける活力形成による健康な時間の創造～福奏プロジェクト～				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	17120人
参画組織	基盤研究機関研究所、産学官連携研究機関研究所、医学部、薬学部、スポーツ科学部、人文学部				
事業概要	現代社会において、子育て力の低下、学校不適應の子供の増加、生活習慣病の蔓延、高齢者の認知症や閉じこもりなど、健康な時間を過ごせない問題が生じている。本福奏プロジェクトは、家族支援、学校教育支援や中・高齢者活動を通じて、身体的・心理的・社会的介入を実施し、活力ある人間をつくる健康先進プログラムを開発することにより、大学の「知」を社会の「価値」に転換し、健康持続社会の実現につなげる。				
①事業目的	<p>本学のスローガンである「人をつくり、時代を拓く。」は、教育方針として掲げる全人教育を「人をつくり」に託し、教育・研究・医療を通じて、社会の発展に積極的に貢献している姿を「時代を拓く」に託している。創立100周年に向け、「建学の精神」に立ち返り、「積極進取」の気概を持って「明るく闊達な大学」の実現に向け「Rise with Us」を掲げ活動している。本事業の目的は、「社会に活力を生み出す福岡大学」として、ライフタイムにおける活力を形成し、健康な時間を創造することである。そのため、福岡大学における医学、薬学、スポーツ科学さらには教育・臨床心理学の成果をもとに、自治体及び企業と連携して「福奏(フクソウ)」プロジェクトを展開する。福奏とは、地域の助け合いを基盤に、人々の福(ハッピー)を奏でることにより、健康持続社会の実現を目指すことである。</p>				
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p>2019年度の日標</p> <p>チームⅠ【中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究】 健康づくり:HTにおける長期スパンによる検証が完了。 サイバニクス:前年度に開発したプログラムについて適応する対象者を増やす。 社会活動支援:一連の研修プログラムに係るシステムを整備する。</p> <p>チームⅡ【学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究】 学校適応:3年目介入(小学6年-問題解決スキル)。 体育支援:体力評価結果を他の校区へ普及させる。体育支援の内容充実を図る。</p> <p>チームⅢ【妊娠・出産及び子育て期の子どもといる生活の研究】 妊娠期から切れ目ない援助を行うための効果的な子育て支援方法を明らかにする。 【ブランディング】中長期計画が確実に実施されているかを把握し修正を行う。</p> <p>2019年度の実実施計画</p> <p>I 健康づくり:HTにおける、長期効果(1年間)を検証する縦断研究を完了させ、プログラムの基本型を完成させる。⇒縦断研究に係る全データが揃った対象者数として30名以上(60～100名)で検証できたか、その結果を踏まえ基本型が確立できたかで評価する。 サイバニクス:HALの効果とその背景にある分子メカニズムを明らかにする。⇒症例数を増やし、エビデンスを確固たるものとする。 社会活動支援:自治体でのコミュニケーション研修スキルのシステムを整える。⇒システムが整備されたか、研修を行った人数(目標1,500人)で評価する。</p> <p>II 学校適応:第3期(小6)を対象に初年度と同様の介入、並びに評価を行う。 体育支援:体力評価の解析結果を福岡市教育委員会と共有し、講演会等を通じて他の校区への普及活動を行う。サッカー・水泳・スノーケリング・ダンス等を通じた体育支援について、体力評価の解析結果を踏まえ内容の改良及び充実を図る。⇒普及活動の進捗状況・実施回数(目標30回)、並びに体育支援において体力評価結果との連続性・一体感のある内容へ改良できたかで評価する。</p> <p>III 子育て準備期および子育て期の親への支援活動を継続し、親を対象に育児負担に関する聞き取り調査並びに、保育士や指導者に対して健康支援対応力の調査を実施する。⇒調査人数(妊娠期および子育て期の親;目標200～300名、保育士や指導者;目標50～100名)と、効果的な支援方法を構築できたかで評価する。</p> <p>【ブランディング】中長期計画と実態の総点検。</p>				

<p>③2019年度の事業成果</p>	<p>チームⅠ【中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究】 健康づくり:一般市民5名を対象に、ヘルスツーリズムを実施した。プログラムは、2泊3日の短期合宿にて、身体活動量の確保及び食事管理による減量方法を習得した。その後1年間の自己管理期間を設け、本年度は1か月後と3か月後の効果を検証した。合宿前と比較した、対象者の体重と体脂肪率の変化量は、-1.4kg/-0.8%、-2.3kg/-2.1%、-3.6kg/-2.6%(合宿後、1か月後、3か月後の順)であった。合宿前と比較した3か月後の体重の変化率は、-5.1%であった。今後、対象者数を増やしていく計画である。また、認知機能に対する漢方薬の効果を検証する目的で取り組んでいるマウスを用いた動物実験において、本年度は老化促進マウスを用いた。老化促進マウスは、フレイルを反映する無気力様行動を示した。その行動変化に対して、八味地黄丸摂取と軽度運動処置はそれぞれ改善傾向を示した。これらの結果から、精神・心理的フレイル症状の対処には、八味地黄丸や運動が単独においても有効である可能性が考えられた。一方、不安様行動に対しては八味地黄丸摂取と軽度運動の組み合わせが改善傾向を示した。 社会活動支援:高齢者に対して質の高いケアサポートを実施するための教育プログラムを、2年間受講した企業社員による、高齢者ケアサポートを開始した。ケアサポートは産官民と連携を図りながら展開した。プログラムの有効性は、企業社員だけでなく連携機関へもアンケートやインタビューを行い総合的に評価した。地域の高齢者は、健康の維持や安心・安全な生活を維持することに関心が高く、認知症や災害対策に対し危機感を持っている。適切な対応について自ら学ぶと同時に、地域住民相互、あるいは周囲の多機関とともに助け合うことを望んでおり、企業社員の果たす役割を含め今後の展開が期待される。</p> <p>チームⅡ【学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究】 学校適応:SST(Social skills training)を活用した介入を開始し3年間が終了した。小学6年生150名を対象とし、学期毎に具体的なターゲットスキルを設定し、年間で5回のSSTを実施した。効果検証は「社会的スキル尺度」と「自尊感情測定尺度」を用いて行った。また、担任教員4名に個別で1年間のSSTを振り返ってもらい、15分の半構造化面接を実施した。SSTでは日常生活で見られる具体的な対人場面をすべての子どもが練習し、自信をもって日常で実践する。それを教員が評価し言葉かけにより強化する。この方法がスキルの獲得を促し、それによって自信、自尊感情の向上をもたらし得ると言える。 体育支援:小学校の体育授業におけるサッカー、水泳、スノーケリングのサポートを実施した。サッカーは「ドリブル」、水泳は「4泳法」、スノーケリングは「浮遊技術・呼吸法」をテーマに実施した。コーディネーショントレーニングは、体育授業における導入・応用方法をテーマとした教員向けの研修会を計5回実施し、小学生を対象とした効果検証も継続実施中である。体力測定サポートでは、生まれ月を考慮した体力テストの新評価基準について検討し、10~3月生まれの子は4~9月生まれの子より体力レベルが低いことが確認されたため、10~3月生まれの子の新評価基準を作成したところ、生まれ月による評価の差を小さくできることが示唆された。</p> <p>チームⅢ【妊娠・出産及び子育て期の子どもといる生活の研究】 妊娠・出産・産褥期の支援として3つの取り組みを実施した。①孫育て・子育て講座を毎月第4土曜に開催し、1月までの受講者は93名であった。②プレママ・パパワークショップを、城南保健福祉センターとの共催で2回開催し、42名が参加した。③ハイリスク児を出産した母親を対象とした探索研究では、症例数は多胎を含む14例であった。一方、子育て期における支援として2つの取り組みを実施した。①保育園等職員に対する食物アレルギー児の対応についての理解を図る事を目的に、福岡市アレルギー研修会を実施した。308名が出席し、73%が「非常に参考になった」と回答した。②福岡市健康安全研修会を行政と共同開催し、[基礎編][実践編][振り返り]を行いシミュレーション研修の段階的な評価を行った。[基礎編]は294名の参加があり、研修の満足度は90%との回答を得た。[実践編]ではシミュレーター(Sim junior)を用いた研修を行い、84名の参加があり、全員が満足したと回答した。</p> <p>【ブランディング】令和元年6月にブランディング戦略会議を開催し、中長期計画を策定した。それに沿って、今年度実施項目のうち、学内調査として事務部門に対しブランドの現状調査と資源の洗出を行った。また、外部調査として日経BPコンサルティングのイメージ調査やリクルートマーケティングの高校生進学ブランド調査を利用し本学のブランドイメージを分析した。</p>
<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)事業開始から3年が過ぎ、福岡県内の自治体と連携した社会実装に力を注いだ。HPの更新(計85回;日本語版48回・英語版37回)を頻繁に行い、事業概要を紹介するパンフレットの改訂版を作成した。例年同様、事業計画書や報告書の取りまとめと外部評価の実施、研究ブランディング推進会議の開催等に取り組んだ。地域住民を対象に研修会や講習、運動指導等を開催し積極的に健康プログラムの普及に努めている。一方で、当初計画との隔たりも生じており、適切な研究デザインに基づくエビデンスを構築することが望まれる。</p> <p>(外部評価)外部評価委員10名(有識者・企業・自治体)に2019年度報告書一式を送付し、書面による外部評価を行った。活動内容について、「充実している」「独自性が高い」「タイムリーである」等の肯定的な評価を得た。客観的データを提示すること、各研究チームが実施している取り組みを産業界や教育現場、地域におろしていくこと(社会実装)、地域や社会にどのような影響を及ぼすかと言った広域且つ中長期スパンでの影響評価の必要性等について指摘を頂いた。</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>大学負担 17,116,856円</p>